

Sustainability

Vision

大王製紙グループ | サステナビリティ・ビジョン

Index

私たちのパーパス(存在意義)	1
大王製紙グループ サステナビリティ・ビジョン	2
ありたい姿「やさしい未来」とは	3
マテリアリティ(重要課題)の特定	4
DAIO やさしい未来2030	5
SDGs達成への貢献	6
2050年 地球温暖化対策の長期ビジョン	7
2050年 カーボンニュートラル実現へのロードマップ	8

私たちのパーパス(存在意義)

「誠意と熱意」をもって、「3つの生きる」を成し遂げ、「やさしい未来」を実現する。

これが私たちの存在意義です。

すなわち経営理念「世界中の人々へ やさしい未来をつむぐ」そのものです。

経営理念「世界中の人々へ やさしい未来をつむぐ」には、事業活動において関わる世界中の顧客の皆様、地域社会や取引先の方々、また地球環境などあらゆる人・ものに対して、ハード面の豊かさの先にある「やさしい未来」を実現する企業でありたいという思いを込めています。私たちが生み出すものが多くの人々の心豊かな暮らしや環境といった「やさしい未来」につながっていくことを望んでいます。

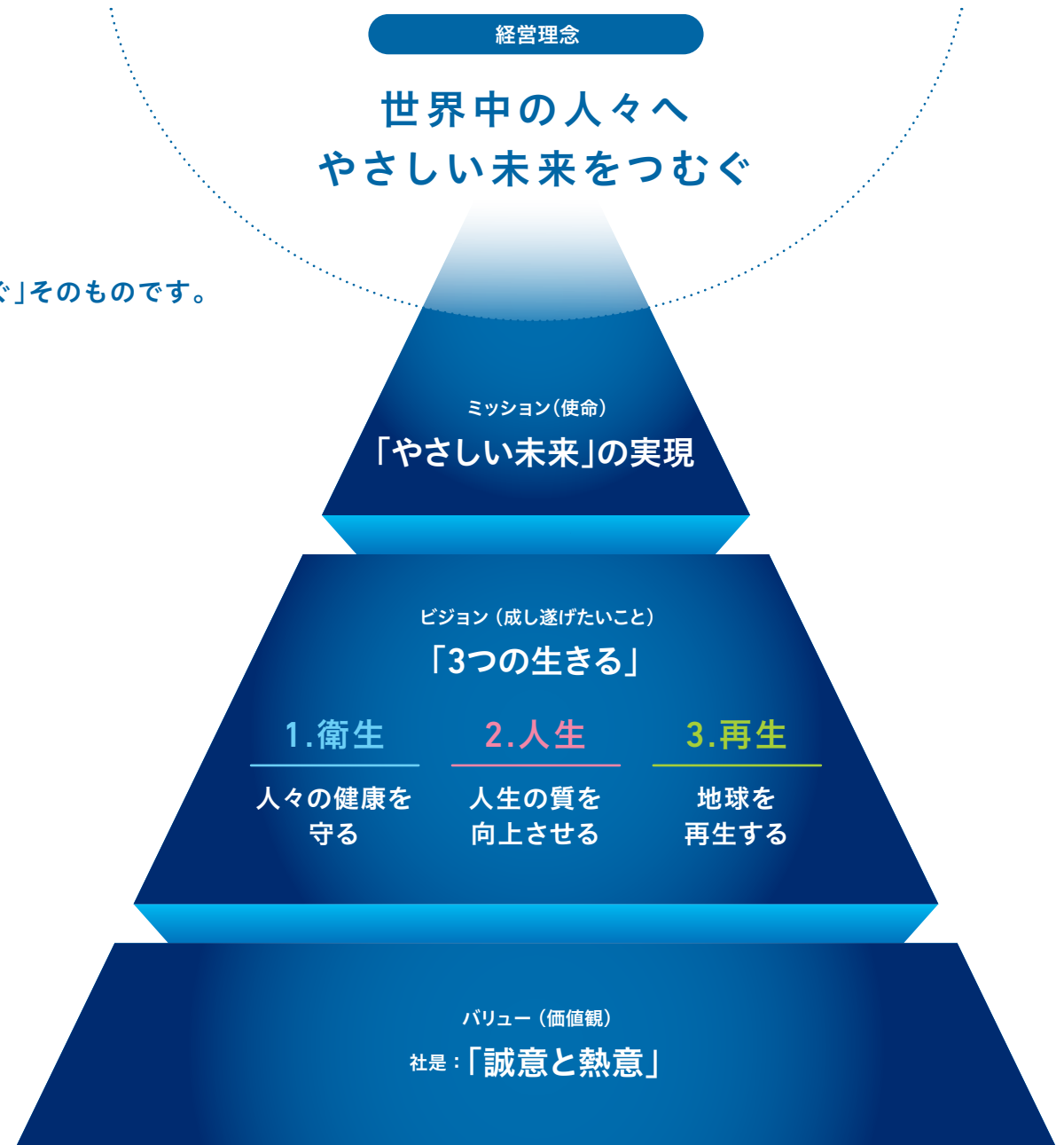
「やさしい未来」を実現するために、私たちが成し遂げたいこと、それは「3つの生きる」です。

1つ目は「衛生」で、衛生用品・習慣を普及させて、人々の健康を守り、あらゆる地域で共生社会を実現させることです。

2つ目は「人生」で、より良い暮らしができるようなサービスを提供し、人生の質を向上させて、心豊かで幸福を感じられる状態にすることです。

3つ目は「再生」で、環境保全に積極的に取り組み、かつての自然豊かな地球に再生し、多様な生物が共生・繁栄できる状態にすることです。

私たちは、「誠意と熱意を持つ者が事を成す」という創業の精神を、あらゆる判断・行動における不変の価値観としています。世界中の人々が豊かな暮らしを実現するために、社員一人ひとりが「誠意と熱意」を胸に日々挑戦し続けます。



大王製紙グループ サステナビリティ・ビジョン

私たちは、ありたい姿「やさしい未来」を実現していくために、経営理念の4つの柱を重んじています。この4つの理念の体現が、「世界中の人々へやさしい未来をつむぐ」ことにつながっていきます。成し遂げなければならない「3つの生きる」は、経営に織り込んで展開しています。

経営理念

世界中の人々へ やさしい未来をつむぐ

ありたい姿「やさしい未来」の実現

D Dedicated ものづくりへのこだわり

マテリアリティ(重要課題)

1. 事業ポートフォリオの戦略的変革
2. グローバル展開の加速
3. 新規事業の創出

I Integrated 安全で働きがいのある 企業風土

マテリアリティ(重要課題)

6. 人権尊重と人財育成、社員への思いやり
7. 公正で透明性の高い経営

1. 衛生

人々の健康を守る

衛生用品・習慣を普及させて人々の健康を守り、あらゆる地域で共生社会を実現します。

「3つの生きる」

2. 人生

人生の質を向上させるより良い暮らしができるサービスを提供することで、人々のQOLを向上させます。

3. 再生

地球を再生する環境保全に積極的に取り組み、多様な生物が共生・繁栄できる自然豊かな地球に再生(リジェネレーション)します。

A Attentive 地域社会とのきずな

マテリアリティ(重要課題)

4. 地域社会との共生
5. 持続可能なサプライチェーンの確立

O Organic 地球環境への貢献

マテリアリティ(重要課題)

8. 気候変動への対応
9. 循環型社会の実現
10. 森林保全と生物多様性の維持

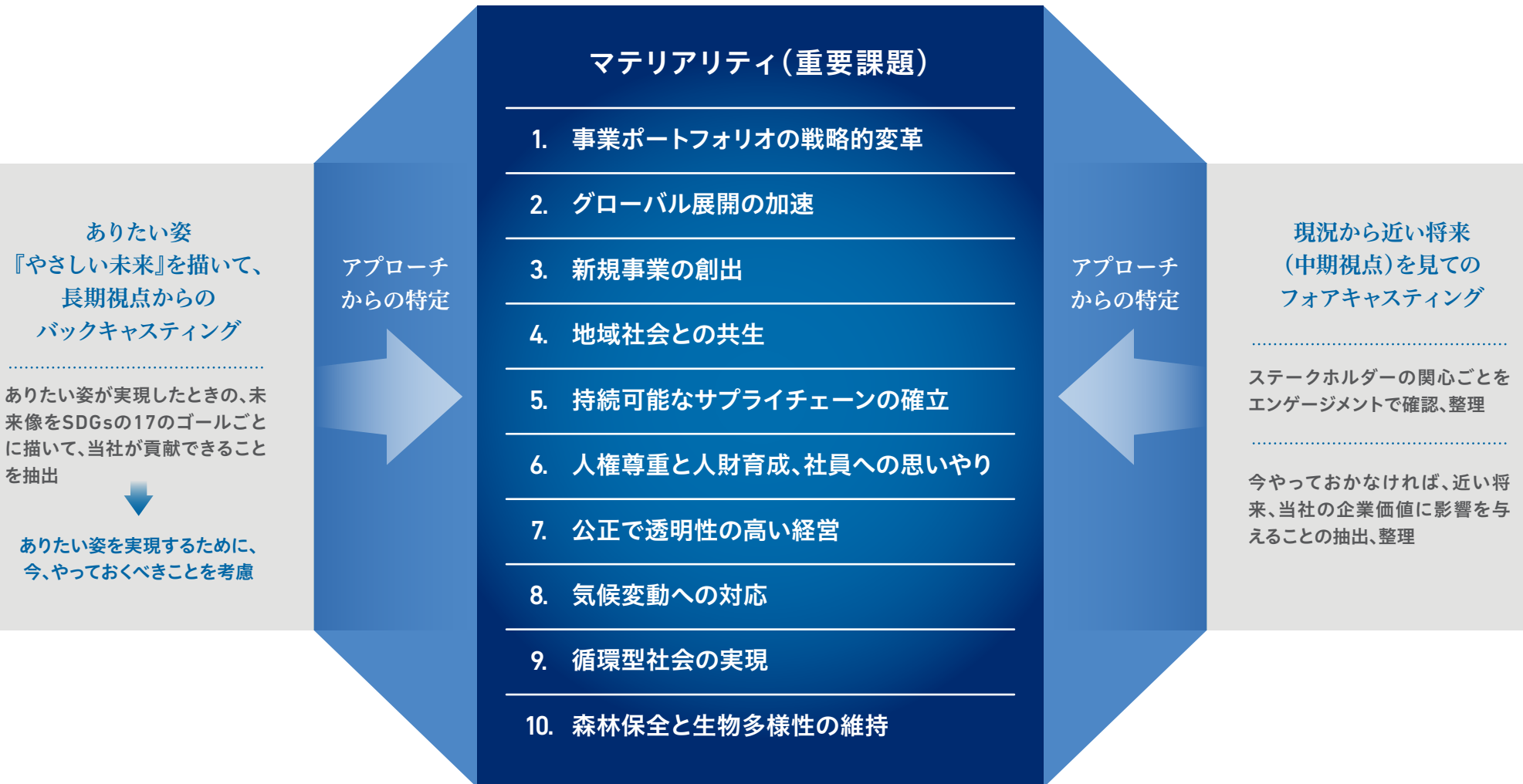
ありたい姿「やさしい未来」とは

ありたい姿「やさしい未来」は、人に対するやさしさと地球に対するやさしさから描かれています。その「やさしい未来」実現時の未来像を、SDGsの17のゴールごとに描いて、私たちが達成に貢献できることを整理しました。この「やさしい未来」を実現したい。そのために「3つの生きる」を成し遂げたいのです。



マテリアリティ(重要課題)の特定

ステークホルダーの関心ごとと当社において、今やっておかなければ、近い将来企業価値に影響を与えるという視点から、リスクと機会(対応)を抽出するとともに、将来のありたい姿からやるべき事項を抽出し、現時点では何が重要かを取締役会・サステナビリティ委員会などで議論し重要課題を特定しています。



『DAIO やさしい未来 2030』

「やさしい未来」を実現するための「3つの生きる」を、創業以来、事業推進を支えてきた経営理念の4つの柱を通じて成し遂げます。

そして、その経営理念4つの柱を体現する中で過去から取り組んできた社会課題解決と、世界共通目標のSDGsを連動させて、事業展開を通じて、SDGsの達成に貢献していきます。



SDGs達成への貢献

	マテリアリティ(重要課題)	事業戦略	事業を通じた主な社会課題解決	SDGsゴール	
Dedicated ものづくりへの こだわり	事業ポートフォリオの 戦略的変革	【新聞・洋紙事業】 ●生産体制・販売構成の見直し ●川下の印刷事業の強化	●洋紙から板紙への転抄 ⇒マシン稼働継続による雇用維持 ●海外各拠点での地域発展に貢献 ⇒技術・開発能力の向上・雇用維持 ●セルロースナノファイバーの商品・用途開発 ●RFIDによる業務効率化・働き方改革 ●環境対策商品(脱プラスチック等)の販売 ●感染症対策商品(マスク・除菌ウェット等)の販売		
	グローバル展開の加速	【H&PC国内事業】 ●吸収体事業の国内シェア向上 ●衛生用紙との複合事業モデル確立			【H&PC海外事業】 ●既進出国での複合事業化 ●新規市場に進出し事業基盤の構築
	新規事業の創出	【新規事業】 ●セルロースナノファイバー:多様なラインアップを取り揃え、複数分野での用途展開・量産化 ●RFID (ICタグ):ソリューション提案による課題解決			

	マテリアリティ(重要課題)	主な取り組み	KPI(2030年時点)	2020年実績	SDGsゴール
Attentive 地域社会との きずな	地域社会との共生	●チリで地域の農業・酪農を支援する生活・灌漑用水の安定供給	—	—	
	持続可能なサプライチェーンの確立	●CSR調達	調達アンケート回収率 100% 5段階評価で3.5以上の取引先数 90%	87% 56%	

Integrated 安全で 働きがいのある 企業風土	人権尊重と人財育成、社員への思いやり	●ダイバーシティ:女性活躍推進 ●人財育成:語学力の向上 ●働き方改革:有給休暇取得推進 : Goo.N すくすく休暇取得推進* : 男性の育児休業取得推進 ●健康経営:禁煙の推進	女性管理職比率 10.0% TOEIC600点以上取得者数 600名 取得率 90% 取得率 100% 取得率 100% 喫煙率 15%	2.2% 223名 67.2% 84.4% 6.0% 26.1%	
	公正で透明性の高い経営	●効果的で透明性の高いガバナンス体制の持続的向上	—	—	—

*Goo.N すくすく休暇取得推進: 育児のための有給休暇5日間

Organic 地球環境への 貢献	気候変動への対応	●バイオマス由来燃料への転換、廃棄物燃料の有効利用など	CO ₂ 排出量削減(対2013年比) 46%	4.6%	
	循環型社会の実現	●難処理古紙の利用促進 ●ゼロエミッション ●水の循環・再利用、適正な排水処理による排水の浄化	板紙への配合率 30% 再資源化率 100% 用水・排水COD売上高当り原単位(対前年比) 1%/年削減	16.7% 98.7% 用水 2019年比 1.6% COD 2019年比 3.0%	
	森林保全と生物多様性の維持	●天然記念物「アレルセ」を現地NPOと連携し保護 ●希少淡水魚「カワバタモロコ」を徳島県と連携し、繁殖・放流	—	—	—

2050年 地球温暖化対策の長期ビジョン

DAIO地球環境憲章

理念

大王製紙グループは地球環境と調和したグローバルな事業展開を通じて環境問題に積極的に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

基本方針

1. 地球温暖化対策の推進

- 温室効果ガス排出量の削減(化石燃料からの燃料転換、省エネルギー等)
- 環境負荷低減や、自然災害に適應する施設・設備への見直し

2. 森林保全と生物多様性の維持

- 森のリサイクル推進(植林によるCO₂吸収量の増大)
- 絶滅危惧の恐れのある動植物の保護

3. 資源の有効活用と環境に配慮した資材調達

- 紙のリサイクル推進(古紙利用促進・難処理古紙利用拡大)
- CSR調達の実現

4. 廃棄物の低減と有効利用

- ゼロエミッションの実現
- 廃棄物再利用促進

5. 環境負荷低減技術・商品の開発と展開

- 水資源の適性管理、水利用の効率化
- 環境配慮型商品の開発・展開

6. サプライチェーンを含めた環境負荷の低減

- ライフサイクルにおけるCO₂排出量の削減
- 荷資材に使用する紙・プラスチック等の資源循環の推進

7. 法令遵守と積極的な環境コミュニケーション・地域社会との共生

- 環境コンプライアンスに関する自主点検活動の推進・レベルアップ
- 環境データの適切な開示と地域共生活動への積極的参加

2050年 地球温暖化対策の長期ビジョン

～2050年カーボンニュートラルの実現を目指します～

- 植林の適正管理を行い、森林の持つCO₂吸収機能を最大限に引き出すとともに、海外植林を推進する
- 現場力による省エネルギー推進を継続するとともに、最新の省エネルギー技術を積極的に導入する
- 太陽光、風力およびバイオマス等の再生可能エネルギーを導入して、温室効果ガス排出量を削減する
- 地球温暖化対策に関する革新技術(エネルギー分野、製紙分野)の活用に挑戦することで、温室効果ガスを削減する

2030年 地球温暖化対策の目標

目標:生産活動で排出するCO₂を2013年度対比で46%削減

①2030年までのコミットメント

- I. 生産活動で排出するCO₂を2013年度対比で46%削減
 - II. 三島工場にある石炭ボイラー3缶のうち、1缶を休止
- 植林の適性管理と海外植林面積の拡大
 - 省エネルギーの推進(エネルギー原単位1%/年以上の改善)
 - 三島工場にリサイクル発電設備新設(環境アセスメント実施中)
 - 国内外の生産工場に太陽光発電設備設置

②既に着手、実行している項目の継続実施

- 三島工場で高効率黒液回収ボイラー稼働(2020年度)
- 三島工場でパイオガス発生設備稼働(2020年度)
- 三島工場で重油からLNGへ燃料転換(2021年度)
- いわき大王製紙にリサイクル発電設備建設(2022年度)

2050年 カーボンニュートラル実現へのロードマップ

多種多様な燃料を利用できるノウハウや新技術の導入により、積極的に化石燃料の削減に取り組む

